

協同組合の連携



●国際協同組合同盟(ICA)が定めた世界共通の協同組合のマークです。

2012年の国際協同組合年(IYC)を契機に、IYC記念全国協議会が設立されました。2016年6月現在、全国農業協同組合中央会、日本生活協同組合連合会など25団体が加盟し、協同組合の価値や役割を広く社会に知らせるとともに、さまざまな種類の協同組合が連携することで新たな価値を生み出し、協同組合運動を促進することを目的に活動しています。

国際協同組合デー記念中央集会

毎年7月の第一土曜日は「国際協同組合デー」です。2015年のテーマは、「協同組合を選ぼう、平等を選ぼう(Choose co-operative, choose equality)」でした。

東京で開催した記念集会には、約300名が参加し、中央大学の宮本太郎教授の「協同組合で拓く地域社会の未来 地域づくりの主軸へ」と題した講演では、「これからの地域社会では協同組合が脇役から主役となって、地域のさまざまな協同組合が連携強化し、ファミリーとして分担関係を築いていくことが重要」と提起いただきました。その後、「拡大する不平等・格差に対する協同組合

の取り組みと今後について」をテーマに農協、生協、漁協、労協より先進的な取り組みを報告。パネルディスカッションでは、熱心な討論が繰り広げられました。

2016年のテーマは、「協同組合：持続可能な未来のために行動する力(Co-operatives: The Power to Act for a Sustainable Future)」です。



パネルディスカッションの様子

さまざまな取り組み

2016年4月に発生した熊本地震では、発生直後にJAグループ支援隊を結成し、被災地の農作業を支援しました。当金庫からも職員を派遣し、選果場での作業や組合員の圃場での農作業に従事しています。また、JAバンクによる貯金の緊急払い出しや、JAバンク・JFマリンバンクによる融資相談といった対応のほか、共済、生協等それぞれの協同組合が緊急時の対応を行っています。

このほか、東日本大震災からの復興を支援し、現地への

理解を深め交流する取り組み、協同労働型の協同組合のための法制度整備に関する学習会の開催、千葉大学の寄付講座「非営利市民事業と協同組合」など、協同組合が連携する活動を継続しています。



釜石地方森林組合での勉強会

日本の協同組合

協同組合は、民主主義を基礎とした事業運営や活動を通じて、経済的・社会的な側面で、人々の生活の向上とその解決を大きく助ける役割を担っています。安全・安心で豊かな食品と生活に役立つ日用品の生産および提供、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業の

ほか、広く地域社会に貢献するためのさまざまな社会的取り組みなどがそれらの一例となります。

そして、大規模災害が発生した際にも、被災地域の復興支援に大きな役割を果たしてきました。

協同組合は、私たちの暮らしのなかであらゆる分野において事業を営み、日々の生活を支えている身近な存在です。